

この9年間で五街道を踏破し、また九州南端の鹿児島県大隅半島佐多岬から、本州最北端の青森県下北半島大間崎まで縦断した。ちょうど区切りが良いので一息ついた気分していると、妻に「今年の春はどうなさるつもりですか」と何度も尋ねられ、しぶしぶ昨年秋に妻からプレゼントされた北海道道路地図を取りだして眺めた。

北海道は広くてどこを目指すのか迷った末、南の函館から北端の宗谷岬まで、南北縦断をすることにした。しかしこれを一気に行くのは無理なので、今回のトコトコ道中はその中間付近となる旭川まで約400Kmとし、日数は行き帰りの移動も含めて24日間の計画だ。



■いざ、函館へ

【移動日】5月12日（月）～14日（水） 神戸～（バス）～東舞鶴～（フェリー）～小樽

12日（月）、三宮20時発のバスに乗り、22時5分東舞鶴港フェリーのりば着。料金2,100円。13日0時5分発の新日本海フェリーに乗船。客室は最低料金9,570円のツーリストクラス。このクラスはだいたい大部屋なので、様々な人達を眺めたり、隣の人とおしゃべりしたりしながら一晩過ごすのが楽しい。しかし新日本海フェリー“あかしあ”は船体が大きく就航10年目で比較的新しいためか、一室10人の部屋に2段ベッドがあり、しかもお互い顔を合わせないで済む造りになっていた。プライバシーが保たれるメリットはあるけれど、大部屋の楽しみがないのは残念だ。

13日（火）、フェリーの食堂で朝食を済ませてから風呂に入る。後は一人船首のデッキに座って、昔読んだ小説の主人公高田屋嘉兵衛も辰悦丸でこの海を航海したのだ、などと思いながらのんびり海を眺めた。フェリーは航海速力30.5ノット（時速約56Km）で進み、日本海が夕日で染まり雪を戴いた山が見え始めると、北海道に来たのだという実感が湧いてきた。三宮を発って24時間あまり、積丹半島を回り込んで20時45分小樽港到着。



<夕闇の北海道>

港から、予約しているJR小樽駅近くのホテルまで1時間ほど歩いて向かう途中、観光名所になっているオルゴール館やガラス館がある目貫通りを行くと誰も歩いていない。随分前に一度観光で来たことはあるが、個性的なレンガ造りの建物も昼間とは違って静まりかえり、落ち着いた趣があった。

14日（水）、小樽駅からJR函館本線で函館に鈍行で向かう。途中、長万部（おしゃまん

べ) から特急北斗 8 号に乗り換えると、車内販売の女性の洗練された対応が目をついた。言葉づかい、身のこなし、笑顔、コスチューム、など接遇はスチュワーデス以上だ。JR 北海道も車内サービスの向上に、「車内販売のおねえちゃん」ではなく「客室乗務員」を契約社員として採用し、教育研修をしているようだ。客の方も、自然と高級レストランで演じそうな態度や言葉づかいになっていたのが微笑ましい。

昼過ぎ、終点函館駅の 1 駅手前の五稜郭駅で下車。その足で五稜郭、函館山、日本聖公会聖ヨハネ教会、函館ハリストス正教会、北方民族資料館などを歩いて観て回った。途中、函館山の麓では司馬遼太郎「菜の花の沖」の主人公高田屋嘉兵衛の像を見つけた。嘉兵衛は江戸後期、淡路島の貧家に生れ、悲惨な境遇から海の男として身を起し、ついには北辺の蝦夷・千島の海で活躍する偉大な商人に成長する。また当時南下する大国ロシアとのはざままで数奇な運命を生き抜いた快男児。函館に嘉兵衛の銅像が建てられているのは、私財をすべて投じて現在の函館の礎を築いた恩人だから、という。

■トコトコ道中出発

【第 1 日】5 月 15 日 (木) 曇・霧雨 五稜郭駅 ~ 大沼公園 26Km

出発は起点としていた函館駅ではなく五稜郭駅にしたのは、前日五稜郭駅から函館駅の間を既に歩いたからだ。足や体力に不安をもって出発する初日に、函館~大沼公園 29Km はきつい。ミミッチイようだが 3Km 縮めておいた。

今回、札幌まで国道 5 号を中心に歩く。1 級国道の番号は東京~大阪が 1 号、大阪~北九州が 2 号、北九州~鹿児島が 3 号、東京~青森が 4 号、そして函館~札幌が 5 号という順番になっている。

函館郊外にさしかかると赤松並木が 17Km にわたって続いていた。その赤松並木の間にあつて、函館駅から北に 4 つ目の七飯駅 (ななえ) の横に、北海道新幹線「仮称新函館駅」(後日、新函館北斗駅と決定) が建設中だった。新青森~新函館間 148Km の開通は 2016 年 3 月の予定、とポスターにあつた。

大沼公園の宿は駅近くの「民宿ゆっくり大沼」2 食付 6,800 円、バリアフリーのバストイレ付き。17 時ころ宿に入ると、これから工事現場に向かう人達とすれ違った。もう何ヶ月も宿泊していて、夜中の 2 時ころ戻って来るらしい。ご苦労さまです。

【第 2 日】16 日 (金) 霧雨 大沼公園 ~ JR 石谷駅 26Km

霧雨が降ったり止んだりするなか、大沼の小さな島々や、遠くに見える駒ヶ岳を眺めながら、公園内の遊歩道を通って国道に出た。このあたりの国道 5 号は最近整備されたのだろう、道がきれいだ。片側 1 車線だが路側帯が 1 車線幅ほど取ってあり、歩道も 1 間ほどあつて、歩きやすい。まだここここに八重桜が咲いていた。



計画では、2 日目は大沼公園から 21Km の森町までとしていたが、昨日歩いて左足が

<大沼公園、遠くに駒ヶ岳>

痛まなかつたので 5Km 先の JR 石谷駅まで足を延ばし、そこから JR で森町に戻って宿泊

した。宿は「旅館椿」2食付 5,800円、風呂トイレ共用。おばあちゃん二人でやっている小さな旅館だが、掃除がいき届き、食事も美味しかった。

【第3日】17日(土) 晴 風強し JR石谷駅～八雲 25Km

これから2日間はずっと内浦湾(噴火湾)に沿って北上し、長万部を目指す。朝から一日中真正面から強風を受け、体感温度は気温以上に低いため、ジャケットの下にダウンのチョッキを着込んで夕方には手袋もはめた。

そんな中でも、国道脇には青々とした“いたどり”や“くまざさ”が延々と続いているので潤いがあり、疲れを癒してくれる。冬、枯れた“いたどり”はストーブの火付け用に使うと聞いた。

夕方、八雲町に到着。八雲町は日本で唯一太平洋と日本海を持つ町とか。宿は「山形屋旅館」素泊まり 4,800円、トイレ付き、風呂共用。土休日は食事を出さないようだ。夕食は旅館横にあった弁当屋の幕の内。コンビニで夕食用にカップヌードルとヨーグルトを買い、翌日の朝食用におにぎり2個とカップ味噌汁を買った。



<内浦湾に沿って延びる国道5号>

【第4日】18日(日) 晴 八雲～長万部 31Km

昨日とは一転。穏やかな日差しを浴びながら八雲を出発。日曜日なのでトラックが少なく、道も静かだ。途中おじいさんに挨拶すると「内地から来たのか」と尋ねられた。九州や四国に「内地」という言葉はない。宿に着いてから働いている娘さんに聞くと、「今も内地という言葉は使います、内地は遠いです」と諦めるようにつぶやいた。

この2日間、右手に内浦湾、ふり返ると2つの峰をもった駒ヶ岳、という光景はずっと変わらず、人にも自転車にもほとんど出会うことはなかった。なので、広い歩道を歩きながら、気兼ねなく発声練習と愛唱歌の階名唱をして疲れを忘れた。

宿は「長万部温泉ホテル」2食付 7,800円、トイレ付き、風呂共用。温泉は源泉かけ流し。夕食はカニ2杯を含めた料理の多さにびっくり。歩き旅ではよく食べるが、この日だけはさすがに食べ残してしまった。



<長万部温泉ホテルの豪華な夕食>

【第5日】19日(月) 晴 長万部町に滞在

朝起きて靴下を履こうとした瞬間、腰が《ギクッ!》。アッと思ったが後のまつり。慢性の腰痛が爆発した。いわゆるギクッ腰だ。トイレも這っていき、座れないので朝食をとることもできない。3時間ほど立ち上がれなかった。旅を続けるかどうか、1日様子を見る

ことにしたが、宿は連泊できなかったので隣のビジネスホテルを予約した。宿を出るとき、お女将さんは気の毒に思ったのか、朝食を食べていないからといって宿代を 6,000 円に負けてくれた。

さて、問題は次の宿のチェックイン 15 時までの 5 時間をどう過ごすかだ。結局 JR 長万部駅に行ってリュックをロッカーに預け、座ってばかりも苦しいので小さな町の中をゆっくり徘徊することにした。膝が曲がり、腰の引けたおじいちゃんの姿勢でトボトボと歩いていると、町役場があったので入って休憩。休憩室の棚にあった「長万部町月刊広報誌」を読んで時間をつぶしているうちに、すっかり「おしゃまんべ通」になってしまった。

町の人口 6,070 人。平成 26 年度一般会計予算は 42 億 4,700 万円。歳入は、自主財源 25,6%、依存財源 74,4%（内訳：地方交付税 50,9%、町債 10,9%、その他 12,6%）。補助金で目にとまったのは、長万部高校生対象に制服購入補助金を 1 回全額補助する。また長万部高校生対象に JR 定期代を全額補助する、というもの。地域の将来を担う若者に、熱い期待を込めているのだろう。折しも「将来、全国で 896 市区町村が消滅の危機に直面する」、という報道がなされていた。

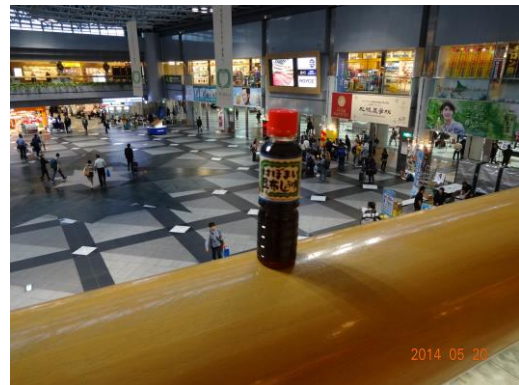
役場の柱には「祝 北海道新幹線札幌延伸着工！『新幹線おしゃまんべ駅』早く開業しまんべ〜」、と垂れ幕があった。新函館駅から新八雲・長万部・倶知安・新小樽・札幌まで、21 年先の 2035 年開通を予定しているらしい。

【第 6 日】20 日（火） 晴 長万部 ~ (JR) ~ 新千歳空港 ~ (飛行機) ~ 神戸空港

前夜、寝る前に椅子をベッドそばに寄せておいたのが役立ち、何とかベッドから床に滑り降りることができた。四つん這いになってトイレへ行ったあと、1 時間ほど床で横になっていたが起きあがれない。旅は中止することにした。

携帯で飛行機便を調べ、スカイマーク便の新千歳空港発 17:30~神戸空港行、料金 19,400 円を予約した。他の航空会社便の半額以下の料金で、しかも便利な神戸空港着。ありがたい。

新千歳空港のロビーでは根室半島にある歯舞中学校生 20 人による「よさこいソーラン」の演技後、特産の「はぼまい昆布しょうゆ」を生徒たちが配っていたのを一本いただいた。尋ねると「修学旅行で来ました」。と、はち切れそうな生徒の声と笑顔が腰の痛みを忘れさせた。



<新千歳空港ロビーと昆布しょうゆ>

■旅を終えて

今回の旅は、全日数 9 日間、歩いた日数 4 日間、歩いた区間は函館~長万部 108Km、当初予定の 4 分の 1 を歩いて終了。

妻には「無事に帰れてよかったですね、ご苦労さまでした」とねぎらわれ、靴下も履かせてもらって感激していると、「早く元気になって続きを旅してくださいね」とおっしゃる。韓国ドラマの録画がたくさん残っていて、たった 9 日間で帰って来られては消化できないらしい。